



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	（仮称）昭和設計株式会社新社屋 新築工事	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 / 満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 （Global Warming）	3.8	/5	ふつつ
“災害に強いしずおか”の形成 （Disaster）	3.1	/5	ふつつ
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 （Universal Design）	3.0	/5	ふつつ
“緑化及び自然景観”の保全・回復 （Nature）	2.7	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示 します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつつ 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号（①～）を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進（Global Warming）		得点	3.8	
<p>■室内環境対策（①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数） ④各部材についてライフサイクルコストを考慮し、目標使用年数や残存期間に応じた材料、工法を考慮したうえで、仕上、設備の各々における高耐久性について留意した。</p> <p>■室外環境（敷地内）対策（⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上）</p> <p>■エネルギー対策（⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用） ⑦建物外皮の熱負荷制御に配慮するため凹凸の少ない建物形状とした。 ⑨効率の良い設備を採用し設備システムの高効率化を図った。</p> <p>■資源・マテリアル対策（⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避） ⑪大便器を節水便器とし、上水の使用量を抑制した。 ⑬化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を積極的に利用した。</p> <p>■敷地外環境対策（⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善） ⑭LOC02の排出率を参照値に対して79%とし地球温暖化抑制へ配慮した。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	“災害に強いしずおか”の形成（Disaster）		得点	3.1
	<p>■サービス性能対策（⑯耐震・免震/⑰信頼性） ⑰設備機器・配管等は耐震クラスAとして、地震災害に対して留意した。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		“しずおかユニバーサルデザイン”の推進（Universal Design）		得点
	<p>■サービス性能対策（⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり） ⑳階高を4.2m、壁長さ比率0.105としてゆとりのある設計とした。</p> <p>■室外環境（敷地内）対策（㉑地域性・アメニティへの配慮）</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復（Nature）		得点	2.7	
<p>■室外環境（敷地内）対策（⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上）</p> <p>■敷地外環境対策（⑳温熱環境悪化の改善）</p>	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ⑳ LR-3 2 2.2 ⑳	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 ⑳ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和设计株式会社新社屋 新築工事	階数	3
建設地	静岡県静岡市葵区若松町41番1	構造	S造
用途地域	準工業地域 防火地区指定なし	平均居住人員	100 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,205 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	令和3年7月 予定	評価の実施日	2020年10月23
敷地面積	2,193 m ²	作成者	鈴木 浩峰
建築面積	874 m ²	確認日	
延床面積	2,568 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 これはCASBEE静岡2016年版による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。 建築物の環境負荷について、省エネ計算対象外ではあるが、高性能な外皮を採用して環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>		特になし
<p>Q1 室内環境 評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能 空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるように配慮している。 また、仕上材に耐久性の高いものを採用し、更新必要間</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) 外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。</p>
<p>LR1 エネルギー 断熱性の高い材料を採用し、熱負荷抑制に配慮している。 また、LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。 また、外壁の仕上材にガルバリウム鋼板を採用し躯体と容易に分別できるよう配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境 地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される